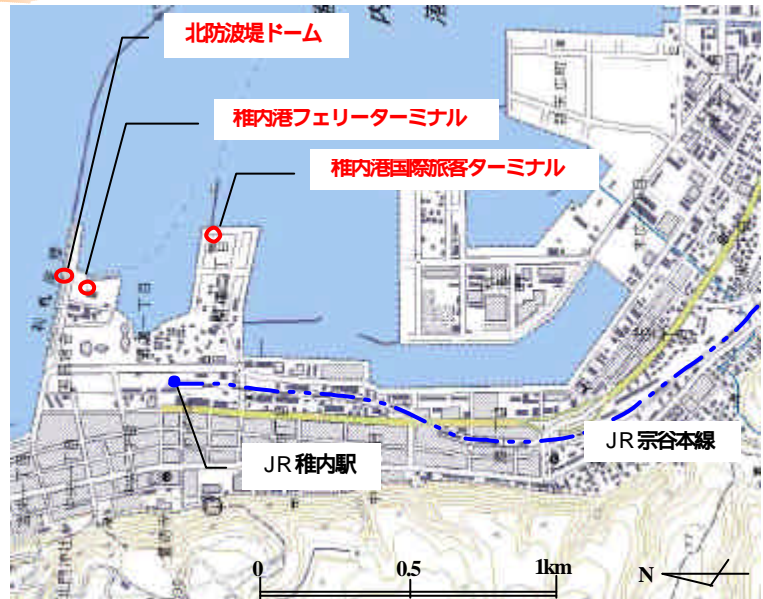
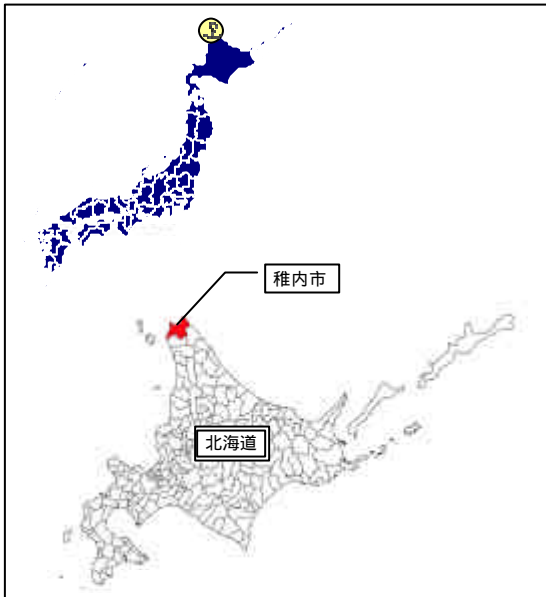


『歴史・文化』を活用したみなとまちづくり(稚内港)

地域の現状



稚内港フェリー航路

稚内～コルサコフ
60往復年
乗降客数 約 5千人/年
稚内～利尻 礼文
2～5往復日
乗降客数 約70万人/年

稚内港(重要港湾)
港湾管理者: 稚内市
所在市町村: 稚内市
人口: 43,000人(平成15年3月 住民基本台帳)
観光客数: 約81万人(平成14年 稚内市調べ)

北防波堤ドームと利尻礼文島への玄関口

稚内港は、戦前、旧樺太への玄関口と北海道北部開発の拠点として港湾整備が進められ、現在は、道北部における物流の拠点、北方漁業の基地、そして利尻・礼文島への連絡港として重要な役割を果たしている。

稚内港には、樺太の大泊(現コルサコフ)を結ぶ稚泊連絡船航路のシンボルである「北防波堤ドーム」(北海道遺産、土木学会選奨遺産)がある。

また、みなとと中心市街地とは隣接し、歴史的にみても、市の経済活動と密接な関係をもちながら発展してきた。しかしながら、近年では、中心市街地では空洞化が進みつつある。



【利尻・礼文島とのフェリー】

地域の課題

市民や離島観光客が集い、賑わうみなとまちの再生

稚内港の中心市街地では、郊外大型店の出店等による商店街の衰退、人口の減少・高齢化が進んでいる。一方、国立公園、利尻・礼文島への離島観光客は、年間約35万人いるが、稚内市中心市街地を通過しているのが現状である。

そのため、稚内市民や、みなとを利用する多くの観光客を取り込んだ、中心市街地(まち)の再生が必要となっている。

『歴史・文化』を活用したみなとまちづくり(稚内港)

みなとまちづくりの目標

市の市街地再生の「日口友好最先端都市」形成への寄与

稚内市の市街地再生のキャッチフレーズ「日口友好最先端都市」にもとづき、みなとの魅力をまちに取り込んで、暮らし・産業・観光を融合させたみなとまちを形成することを目指す。

活用したみなとの資産

北防波堤ドーム

一年を通じて強風と高波に見舞われる最北端の風の街、稚内。大正から昭和の初めにかけて高さ5.5mの防波堤が作られていたが、波を完全に防ぐことができず、樺太航路の発着場に被害が相次いでいた。そこで昭和6年、当時の稚内築港事務所長平尾俊雄氏の指示のもと、屋根付ドーム型の防波堤護岸の設計を任されたのが北海道大学の第一期卒業生で当時まだ26歳の土屋実氏だった。北防波堤ドームは昭和11年完成。昭和56年に原型復旧された。全長424m、高さ13.2m、内部は多目的広場として利用可能である。平成13年には、北海道遺産に指定された。



【北防波堤ドーム】



【夜の北防波堤ドーム】

北防波堤ドームコンサートの役割分担

・稚内のみなとを考える女性ネットワーク
演奏団体への依頼、調整、イベントの実施

・稚内市

出演者の送迎や機材の運搬のためのバスの提供

イス等の機材の提供
準備、会場設営、後かたづけの手伝い

・稚内港湾事務所

打合せ時の会議室の提供

準備、会場設営、後かたづけの手伝い

市民と協働したみなとまちづくりの検討とイベント

北防波堤ドームコンサートの開催

取り組み体制

北防波堤ドームコンサートイベントは、「稚内のみなとを考える女性ネットワーク」が主体となって実施した。

「稚内のみなとを考える女性ネットワーク」は地元FMパーソナリティーである望南海昂氏が、「女性によるみなとまちづくりネットワーク」が全国的な広がりを見せていることに刺激を受け、中心となって平成14年9月に設立した。

行政は、団体設立にあたりアドバイス等を行い、協力した。

概要

市民のみなとへの関心を高めるために、北防波堤ドームの音響効果を活用し、地元アマチュアバンドなどによるコンサート(WAKKANAI みなとコンサート)を実施した。

実施日：平成15年9月20日(日)

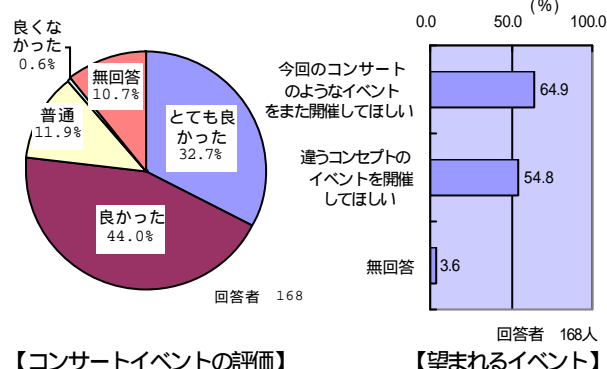
場 所：稚内港北防波堤、北ふ頭

参加者：約200名



【北防波堤ドームコンサート】

『歴史・文化』を活用したみなとまちづくり(稚内港)



取り組みの成果

コンサートイベントとして7割の評価

- コンサートイベントに参加した多くは、良かった(77%)と評価しており、「来年度以降も開催してほしい」意見も多かった(65%)
- コンサート以外にも、花火大会や、みなと祭り、冬を楽しめるイベントなどを開催してほしいという意見も多く得られた。

みなとまちづくり懇談会によるみなとまちづくりの検討

取り組み体制

取り組みにあたっては、「青年会議所」、「稚内のみなとを考える女性ネットワーク」、「稚内市」、「北海道開発局稚内開発建設部」などで構成する『稚内港みなと・まちづくり協議会』を設置し、みなとまちづくり懇談会を実施した。

当初、懇談会への一般市民の応募が少なかったことから、参加者でもある地元FMパーソナリティ・望南海昂氏より、懇談会の内容要旨を簡単に放送し、参加を呼びかけた結果、回を重ねる毎に参加者が増加した。(延べ参加者：150名以上)

概要

市民による「みなとまちづくり懇談会」の開催により、市民の立場から中心市街地とみなとをどのように発展及び活用したいか、また、来訪者にどのようなサービスを提供するかという「みなとまちづくりプラン(素案)」をとりまとめ、その実現に必要な施設やアクセス形成について提案した。

実施日：平成15年10月～3月(計5回)

場 所：稚内市役所

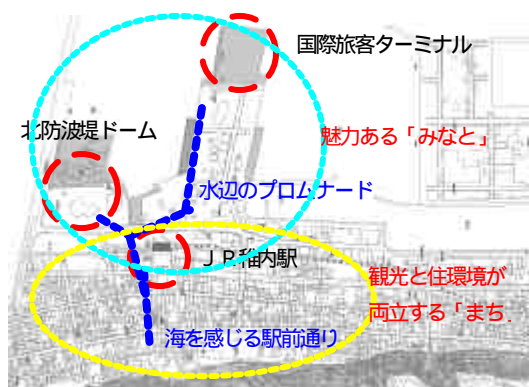
取り組みの成果

懇談会においてみなとまちづくりプラン(素案)として以下のハード・ソフト両面の提案をとりまとめた

- 国際フェリーターミナル、北防波堤ドーム、JR稚内駅の3つの核をつなぐ軸線を中心に、プロムナード等の整備と景観形成を行う方針を提案した。
- 市民が進めるソフト施策として、ゆきあかりイベントの実施、花と緑でみなとと駅を飾る、北防波堤ドームでの朝市開催、観光ガイドの育成、クルーズの誘致等を提案し、準備の整ったものから随時進めていく。



【タウン&ポートウォッチング】



【みなとまちづくりの空間形成】

『歴史・文化』を活用したみなとまちづくり(稚内港)

懇談会から生まれた市民主体のイベント「ゆきあかり」

取り組み体制

「ゆきあかり」は「稚内みなとまちづくり懇談会」参加者等で設立した「稚内ゆきあかり実行委員会」が主催した。

行政がキャンドル費用(約40万円)を負担し、その他、キャンドル作製からイベントの実施は実行委員会が行った。

実行委員会は、懇談会参加者及びその関係者等への呼びかけ、市民へのチラシの配布などにより参加者を募り、約90名の市民が参加した。

概要

まちとみなとをつなぐ駅前通～みなとまでのおよそ500mにおいて地元商店街、小中学生、観光客等との協力により約1200個のゆきあかり¹を設置した。

実施日：平成16年2月14日(土)

場 所：稚内市市街地～北ふ頭(右図参照)

取り組みの成果

- 懇談会で誕生したアイデアであり、市民の発意によって実施した「ゆきあかり」イベントは、参加した市民の間で今後の継続を、との意見があり、来年度以降も実施することになった。

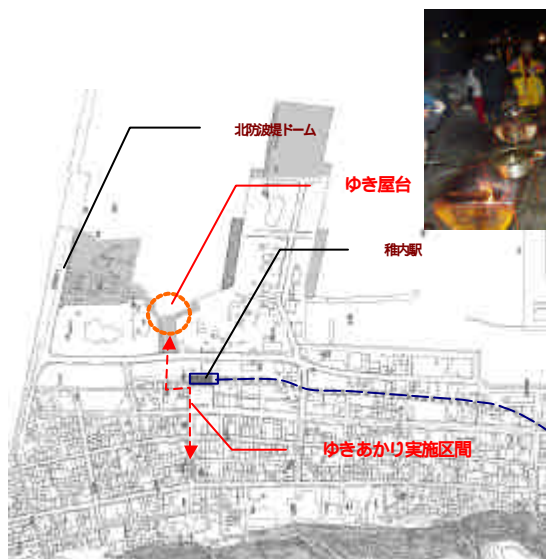
今後のみなとまちづくりの取り組みへ

みなとまちづくり懇談会の継続的实施

今後は「世話役会」を設けて懇談会の開催や進め方、活動について検討し、それらを原案としながら「みなとまちづくり懇談会」で議論することが望ましい。

また、必要に応じて市民を対象としたまちづくりに関する勉強会を兼ねた雑談会「みなとまちづくり塾」を開催して、市民にみなとまちづくりに対する関心を持ってもらえるようにするほか、情報交換を行う。

今後のイベントスケジュール(案) 懇談会でのアイデアより
花と緑の活動(5月)
朝市・屋台イベント(8月)
ゆきあかりイベント(2月)



【ゆきあかりルート】



【ゆきあかり】

みなとまちづくり懇談会・世話役会
懇談会のテーマ、開催日などを行政と一緒に検討

みなとまちづくり塾(必要に応じて)

みなとまちづくり懇談会(広く市民に呼びかけ開催)

みなとまちづくり懇談会・世話役会

ソフト事業の実践

【平成16年度以降の進め方イメージ】

¹ ゆきあかり：バケツに中空になるように雪を入れ、押し固めた後、逆さにして中空部分にロウソクを灯し、歩道等に設置したもの。